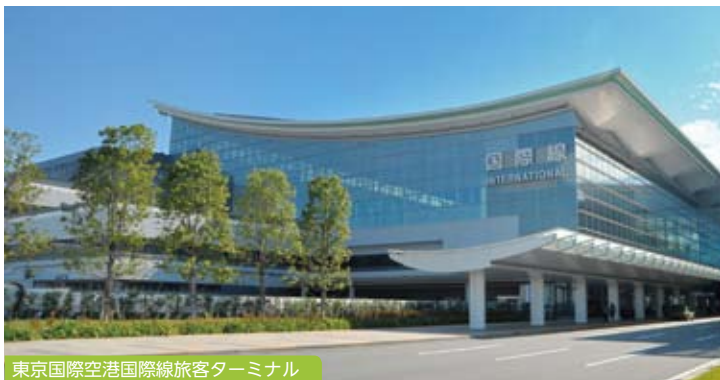


# 東京国際空港ターミナル 株式会社 ●東京都大田区

## 徹底して環境負荷を低減させた、日本の空の玄関

【贈呈理由】 羽田空港国際線旅客ターミナルにおける蓄熱システムおよびターボ冷凍機の導入



東京国際空港国際線旅客ターミナル

1952(昭和27)年、日本政府に返還された「東京国際空港」は、以来50余年の長きにわたって「日本の空の玄関」として活躍。現在は年間約6,000万人を超える航空旅客が利用する世界屈指の大空港に成長した。その後2010年、「東京国際空港再拡張事業(PFI方式)」により新たに国際線旅客ターミナルが完成し、「東アジアへのゲートウェイ」として新しいスタートを切った。

国際線旅客ターミナルは、「地球と人に優しいエコエアポートの実現」というコンセプトの下、大気環境、騒音・振動、水環境、土壌環境、廃棄物、

エネルギー、自然環境の7つの環境要素に沿って、省エネルギー・省資源を徹底するため、建物のエネルギー消費を低減し効率的なエネルギーの利用が行える環境負荷の低い施設となっている。

また、国際線の特性である24時間365日稼働する無休の施設であり、かつ、年間の冷房負荷が多いという特徴があり、前述の環境性ととともに、経済性も考慮し、

高効率でCO<sub>2</sub>排出量の少ないターボ冷凍機と水蓄熱式空調システムを主とした熱源構成となっている。

12年の秋にはターミナルのさらなる拡張事業も始まる予定となっており、都心に近接した誰もが快適に利用できる「日本の空の玄関」として、今後も個性と魅力にあふれる環境を創造することが期待されている。

### 東京国際空港ターミナル株式会社

所在地:東京都大田区羽田空港 2-6-5  
 建築設計:羽田空港国際線PTB設計共同企業体  
 建築施工:鹿島・北野特定建設工事共同企業体(A・B工区)  
 蓄熱設備設計:羽田空港国際線PTB設計共同企業体  
 蓄熱設備施工:鹿島・北野特定建設工事共同企業体  
 (A・B工区)  
 延床面積:158,907㎡  
 竣工:2010年(新設)

#### ●蓄熱設備概要

水蓄熱式空調システム 熱源機:ターボ冷凍機  
 3,516kW×3基(荏原冷熱システム) 蓄熱槽:3,000㎡(冷水槽)